

小中連携の教育方法に関する研究

A Research on Educational Method for Cooperation between Primary and Junior High School 小学校と中学校における少人数指導に関する実態調査の分析結果から

- Analysis of Investigation into Small-Group Instruction at Primary and Junior High School -

小柳 和喜雄

Wakio OYANAGI

奈良教育大学

Nara University of Education

<あらまし> 本発表は、効果的な小中連携教育を考えていく1つの視点として、組織的に、また意図的計画的に行う少人数指導（加配の方法、加配された教員の役割と小中連携教育の関係）の可能性に焦点化し、調査研究を進めた結果を報告するものである。A県で行われた小学校と中学校の少人数指導の実態調査分析を行うことを通じて、少人数指導の現状、効果の手応え、運用上の課題、など明らかにすることを通して、中学校区の組織的教育力をパワーアップする道筋の検討を行った。

<キーワード> 少人数指導 教授法 学習指導 授業実践 小学校教育 中学校教育

1. はじめに

本発表は、「異校園連携研究におけるミドルリーダーの役割の明確化及び情報共有支援システムの開発」の一環として、中学校区の組織的教育力を上げるための教育方法改善として、小中学校共に行われてきた少人数指導の効果的な連携に関心を向けたものである。少人数指導はそれぞれの状況に応じて、学校の判断で行われてきたが、中学校区（義務教育）の組織的教育力をパワーアップするためには、その中学校区でトータルに子どもを育てていく教育方法のデザインも考えていくことが重要である。意図的・計画的に少人数指導を小中連携と関連づけてとらえ、その加配された教員の役割、組織的継続的な教育方法の検討を、異校園連携研究に関わるミドルリーダー・チームが調整し・関連づけていくことが求められる。

そこで本研究は、以下の調査結果を分析することを通して、教育方法の検討を少人数指導に光を当てて行い、その道筋の検討を行うことを目的とした。

2. 調査の対象と方法

2.1 調査のねらい

本調査は、A県において、個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行うために、少人数指導（少

人数学級編制・少人数授業等）について、その効果や課題を明かにし、少人数指導加配教員の効果的な活用を図ることを目的に実施されたものである。

2.2 調査対象

(1) 対象校

平成21年度に少人数指導加配を受け少人数指導を実施している小・中学校

(2) 対象者

① 校長及び少人数指導担当教員

② 児童生徒、保護者

③ 21年度「少人数指導」を実施していない学年の児童生徒で、昨年度「少人数指導」を経験した児童生徒

		校長	教員	児童生徒	保護者
少人数学級編成指導	小学校	98	417	3166	3040
	中学校	19	217	679	415
少人数授業指導	小学校	110	711	8346	7301
	中学校	81	453	4738	3667

なお全ての質問項目にこの人数が応えているわけではない。

2.3 調査期間

平成21年12月下旬から平成22年1月下旬

2.4 調査方法

県教育委員会から対象校にアンケート用紙を電子的に配布し、データを収集した。

3. 調査結果の概要と得られた知見

少人数指導（少人数学級編制と少人数授業）については、校長、教員、児童生徒、保護者の回答

より、概ねその効果があるという回答が得られた。しかしながら、得られたことを、本調査の目的の2つめである課題の発見(加配教員の効果的な活用;小中連携の教育方法改善)とかかわって述べるならば以下の点が上げられる。

(1) 少人数指導(少人数学級編制と少人数授業)を推進していく際には、その人数を生かす授業方法を考えるなど、少人数の授業の授業観をあらためて問い直し指の洗練化を図っていく必要がある。(学習面の指導と生活面の指導の両方において)

(2) 少人数指導の受けとめ方と関わって、校長、教員、保護者の見方と、児童生徒の見方は少し異なっていることを理解する必要がある。本調査結果から明らかになったように、児童生徒は、校長、教員、保護者が望んでいるほど、少人数学級や少人数授業に対して望んでいるとは限らない。児童生徒がそのメリットを感じられる経験を与えたり、指導法の工夫を考えるか、あるいは児童生徒が望んでいる人数規模で効果を上げる方法の検討などが求められる。

(3) 少人数学級編制は、生活面の指導と学習面の指導の両方を同時に行っている可能性を持っているため、学校種が変わる学年(小学校1年生、中学校1年生)などでは校長、教員に好まれる傾向が見られる(全ての学年で少人数学級編制が可能であればそれを望む声は多いが、実態に即して考えていく必要があるという声もある)。しかしながら、仮に30人学級と定めて、31名になった場合、16名と15名の2つのクラス編成になると、学習活動よってはうまく機能しづらくなる場合もあるなどの指摘もある(自由記述から)。さらに中学校などでは、クラス数が増えることによって、教員の担当時間数が増えること、またそれを解消していくは、時間増に対応できる免許を持った教員配置が求められるため、特定の教科の教員を増員せざるを得ないなど人事配置の課題もある。

(4) 少人数授業は、教科特性や内容の困難さなどに関わって、授業を行っていくため柔軟性があり、学校として加配教員に効果的な役割を持たせる可能性がある。しかしながら、調査結果でも出ていたように、教員間で打ち合わせ時間の確保や進度調整、また保護者からも、少人数学級編制ほど高い支持はないこともあり、その違いの説明と

共に、(1)で述べた授業方法の工夫やチームでの指導方法の工夫などが求められる。

以上の4点が今後の課題としてあげられた。

例えば、県教育委員会が、少人数加配を行う場合、少人数学級編制で活用するか、または少人数授業で活用するかについては、現場サイドの実態に即した自主的な判断を大限尊重することが求められる。

また現場サイドにおいても、少人数学級編制、少人数授業のいずれを選択するについては、教える側の論理だけではなく、生徒や保護者の見方・捉え方を踏まえ多面的・総合的に判断することが求められることが、明らかになった。

4. まとめ

以上これまで小中学校における少人数指導の実態・効果及び運用上の課題について検討してきた。この結果から、小中連携の教育方法改善を検討していくためには、上記の課題を考慮しつつ、そこに中学校区として意図的・計画的・組織的に教育に当たっていく発想を入れていく必要がある。子どもは小中学校を通して連続し学んでいくからである。そのためには、異校圏連携研究に関わるミドルリーダー・チームと管理職が共に、小中と連続して学んでいく子どもの学習活動へ意識を向け、加配教員等の役割検討と運用のための小中連携システムの検討をする必要がある。

参考文献

大久保智生, 山本淳子, 藤井浩史, 辻幸治, 横山新二, 有馬道久(2007) 学級規模が児童の学級適応に及ぼす影響(1): 児童の意識調査から. 香川大学教育実践総合研究 15, 33-39.

雪丸武彦(2008)市町村費負担による加配教員の任用に関する考察: 福岡県小学校校長会との連携事業と県下小学校データの分析. 九州大学大学院人間環境学府 教育経営学研究紀要 11, 49-51.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/072/shiryo/attach/1293877.htm (今後の学級編制及び教職員定数の改善に関する有識者ヒアリング(2010年7月19日確認))

謝辞

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(C)(19500801) 異校圏連携研究におけるミドルリーダーの役割の明確化及び情報共有支援システムの開発(代表:小柳和喜雄)からの支援を得た。

小中連携の教育方法に関する研究 小学校と中学校における少人数指導に 関する実態調査の分析結果から

小柳和喜雄 (奈良教育大学)
oyanagi@nara-edu.ac.jp

22年度7月現在 小中一貫教育の全国の動き

<p>取り組みの背景</p>	<p>①中1問題に対するゆるやかな接続、②学力向上への寄与、③成長の実態に即した学校階梯の再考、④地域理解・連携の必要性、⑤自己理解・他者理解・縦集団との出会いの必要性、⑥学校適正規模・統廃校・校舎改築などの理由、⑦市町村の教育ビジョンに沿った取組</p>
<p>9年間の指導体制</p>	<p>①校舎一体・併設・隣接の場合 新たな学年ブロックを用いる、用いない)、②校舎が離れている場合 内容・方法連携・交流・家庭学習支援)</p>
<p>取り組みの特徴</p>	<p>①外国語・英語・国際系、②地域系、③人権・道徳・特活・進路融合系、④ものづくり、⑤健康・食育系、⑥情報・コミュニケーション系、⑦読解力などある力の獲得へ焦点化、⑧交流学习</p>
<p>現状及び成果</p>	<p>①子どもの学校生活面の改善、②学力向上への寄与、③教員組織の変化(手こたえ)、③前年度からの全体計画の策定、④指導方法の連携・情報の共有、⑤出前・合同授業の実施、異学年・異なる学校の子どもの交流、⑥校区連携会議の設置、⑦小中一貫コーディネータ、あるいはチームの設置と研修と情報交換の場の設定、⑧兼務体制の明確化、⑨地道な広報活動による小中一貫・連携教育の意味の一層の啓発</p>
<p>課題</p>	<p>①会議・打ち合わせ時間の確保、②学力向上、生活面の変化などに関する継続的な評価、③環境・設備・人的配置など移行期に伴う課題への対応・校務分掌の見直し、連携校型の学校での取組みへの一歩・継続性、小小連携、④教科部会設置などによる教科カリキュラムさらなる連携、⑤取組の外部評価</p>

小中一貫教育全国サミット2010(本日7月30日) 離設分離型小中一貫教育の課題を探る

小中一貫・連携の取組において現在よく見られる取組のケース

教科指導等連携・一貫の力点を置いている場合

- 小中学校に**共通の新たな教科・領域を設定**し、それと関わって小中一貫・連携を進めていく
- 小中学校の既存の取組のうち、ある学習活動と関わる**取組内容**に焦点化して小中連携を進めていく
 - 例えば、算数・数学、理科、総合的な学習の時間 体系的に考えられた小中連携、合同)、ものづくり、食育、人権教育、図書館利用と読書活動、ほか、へ焦点化され
 - 学習の手引きの作成
- 小中学校の既存の取組のうち、学習活動と関わる**取組方法**に焦点化して小中連携を進めていく
 - 出前授業・協同授業・ITほか
 - **全ての教科における言語活動の充実 各学年の取組ポイント等を体系的に)**
 - 定着支援の方法の連携 朝の時間、小テストなどの活用、子どもたちに問題やテストを作らせる、必ず自分たちで考え表現する時間を確保する。効果的なノートの活用・作成を指導する、ほか。)
 - 教育機器の効果的な活用の連携
 - 学習個人カルテの作成による指導情報の共有

特別活動等に連携・一貫の力点を置いている場合

- 特別活動、学校行事 : 体育大会、文化祭、遠足ほかに焦点化して小中連携を進めていく
 - 部活動の説明会、体験
 - 学習の仕方の発表会 (体験授業ほか)
 - 異なる学年の交流活動→リーダー性の発揮、協調性
 - 幼と小1 幼と小4 幼と中

家庭学習支援等連携・一貫の力点を置いている場合

- 宿題と教科指導の効果的な連携
 - 家庭学習支援の手引きの作成 (自己管理の効果的な方法と学習の進め方)

研究の課題意識

- 小中連携・一貫教育に関わって、目に見えた変化への取組に目が向けられる一方で、既存の取組についても目を向け、そこでの連携・一貫を検討していくことも重要ではないか？



- 第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画および学力向上の取組で、これまで小中学校で行われてきた少人数指導を小中連携と関連づけてとらえ、その加配された教員の役割、組織的継続的な教育方法の検討を、異校園連携研究に関わるミドルリーダー・チームが調整し、関連づけていくことも重要ではないか？

研究目的

- A県において行われた 個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行うために、少人数指導 (少人数学級編制・少人数授業等) について、その効果や課題を明かにし、少人数指導加配教員の効果的な活用を図ることを目的とする」調査から、**小中学校における少人数指導の実態及び、そこで検討課題を明らかにする**
- また小中連携・一貫教育の教育方法で考えていく際のポイントの示唆を得る

研究方法

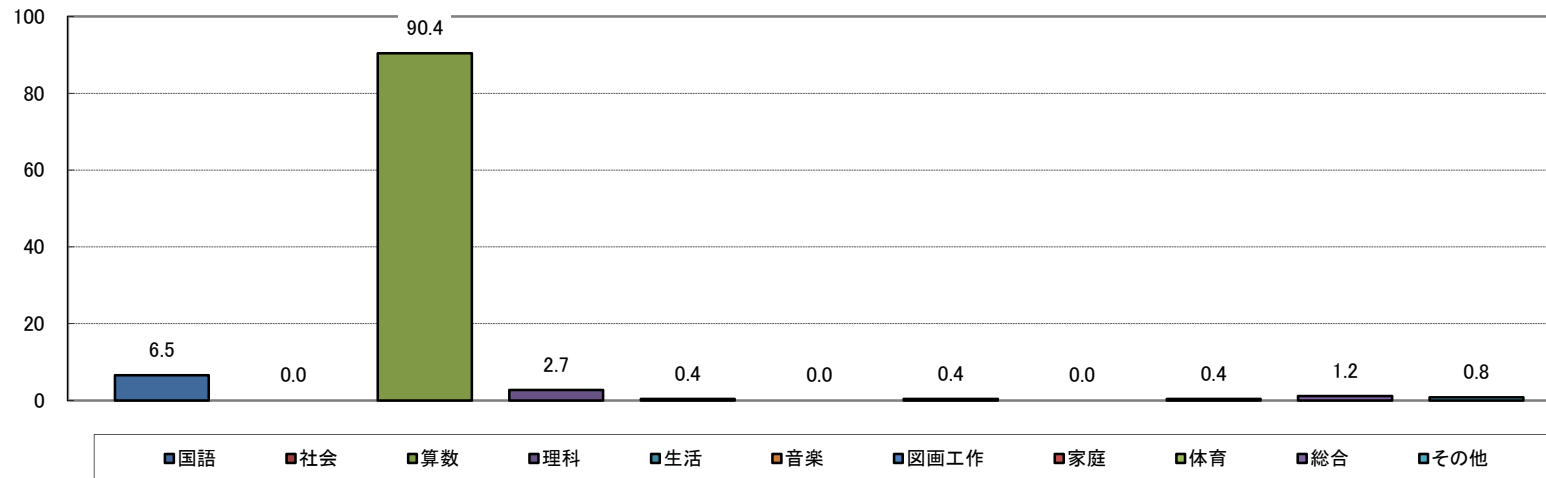
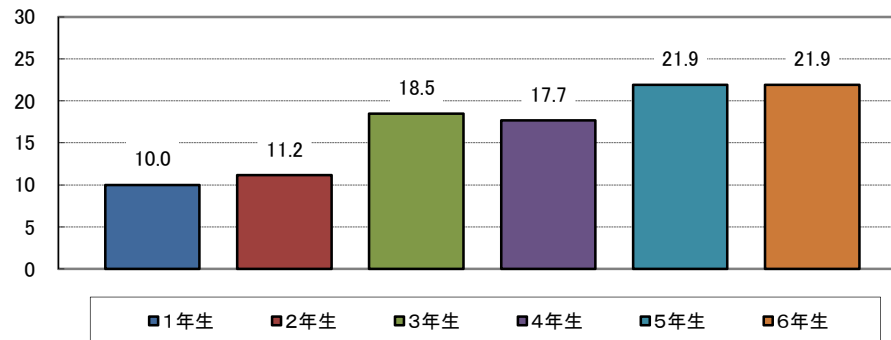
質問紙調査

- (1) 対象校
 - 平成21年度に少人数指導加配を受け少人数指導を実施している小・中学校
- (2) 対象者
 - ① 校長及び少人数指導担当教員
 - ② 児童生徒、保護者
 - ③ 21年度「少人数指導」を実施していない学年の児童生徒で、昨年度「少人数指導」を経験した児童生徒
 - なお全ての質問項目にこの人数が応えているわけではない。
- (3) 調査期間
 - 平成21年12月下旬から平成22年 月 下旬
- (4) 調査方法
 - A 県教育委員会から対象校にアンケート用紙を電子的に配布し、データを収集した。

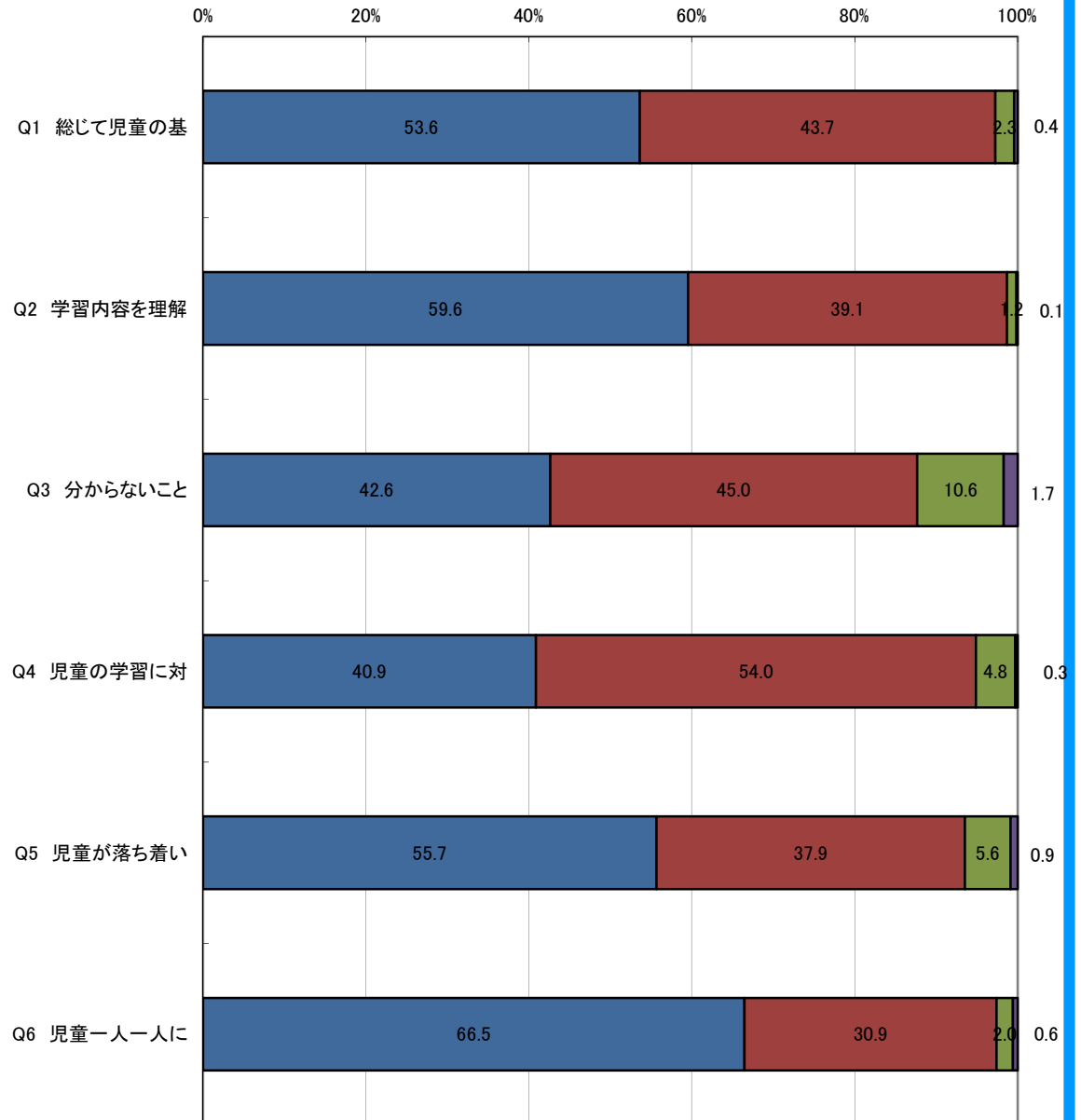
		校長	教員	児童生徒	保護者
少人数 学級編 成指導	小学 小校	98	417	3166	3040
	中学 中校	19	217	679	415
少人数 授業指 導	小学 小校	110	711	8346	7301
	中学 中校	81	453	4738	3667

結果の概要

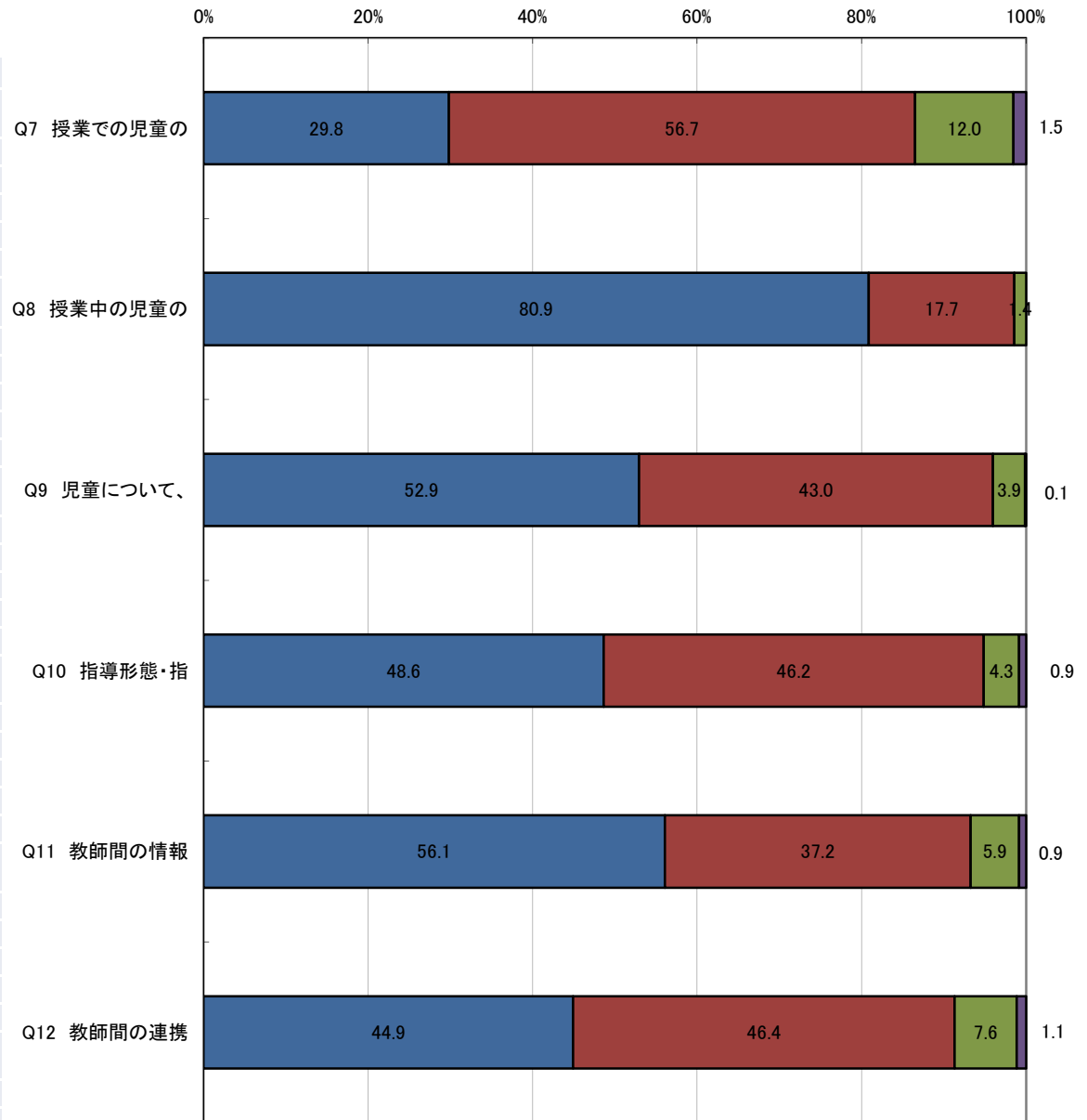
少人数授業指導（教員の場合）



Q1 総じて児童の基礎学力の向上	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	694	372	303	16	3
構成比率(%)	100.0	53.6	43.7	2.3	0.4
Q2 学習内容を理解できている児童の増加	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	695	414	272	8	1
構成比率(%)	100.0	59.6	39.1	1.2	0.1
Q3 分からないことを積極的に質問する児童の増加	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	706	301	318	75	12
構成比率(%)	100.0	42.6	45.0	10.6	1.7
Q4 児童の学習に対する意欲・興味・関心が高まり	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	702	287	379	34	2
構成比率(%)	100.0	40.9	54.0	4.8	0.3
Q5 児童が落ち着いて学習する	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	697	388	264	39	6
構成比率(%)	100.0	55.7	37.9	5.6	0.9
Q6 児童一人一人に応じたきめ細やかな指導	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	695	462	215	14	4
構成比率(%)	100.0	66.5	30.9	2.0	0.6

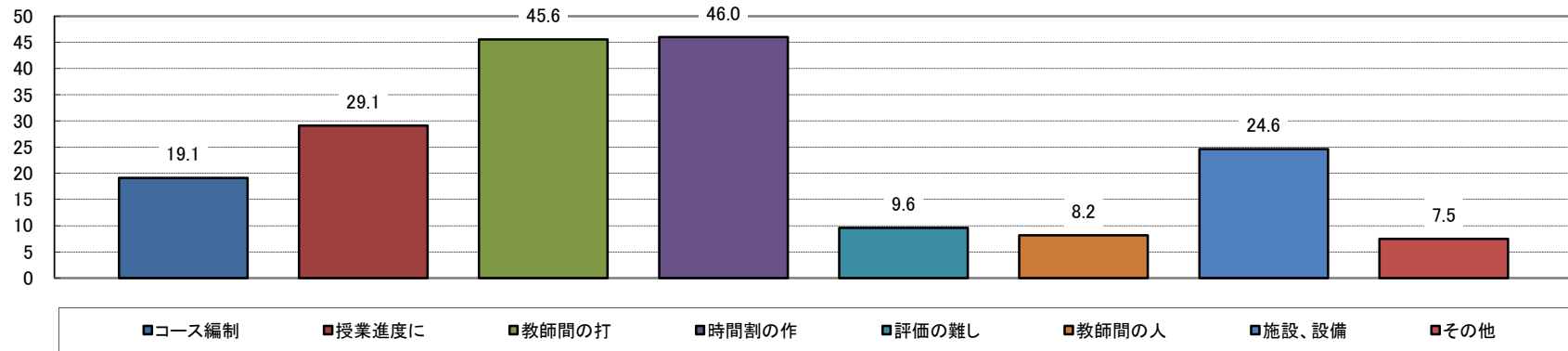


Q7 授業での児童の発言や意見交流の活発化	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	711	212	403	85	11
構成比率(%)	100.0	29.8	56.7	12.0	1.5
Q8 授業中の児童の状況をより把握できる	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	690	558	122	10	0
構成比率(%)	100.0	80.9	17.7	1.4	0.0
Q9 児童について、より適切な評価ができる	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	695	368	299	27	1
構成比率(%)	100.0	52.9	43.0	3.9	0.1
Q10 指導形態・指導方法等、授業改善に取り組む意欲の高まり	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	699	340	323	30	6
構成比率(%)	100.0	48.6	46.2	4.3	0.9
Q11 教師間の情報交換が活発化と連携協力	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	697	391	259	41	6
構成比率(%)	100.0	56.1	37.2	5.9	0.9
Q12 教師間の連携により指導力の向上や教材研究の深化	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	701	315	325	53	8
構成比率(%)	100.0	44.9	46.4	7.6	1.1



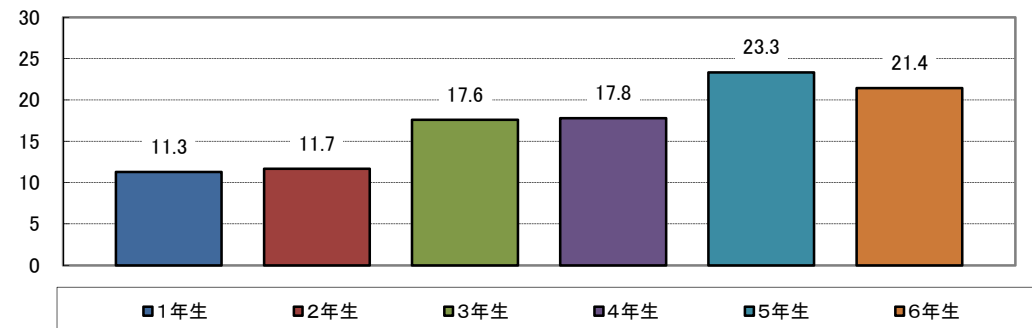
Q16 少人数授業における実施上の課題

	全体	コース編制の難しさ	授業進度に合わせる事の難しさ	教師間の打合せや教材準備の時間確保の難しさ	時間割の作成、変更の難しさ	評価の難しさ	教師間の人関係作りや連携の難しさ	施設、設備の確保の難しさ	その他
回答数	711	136	207	324	327	68	58	175	53
構成比率(%)	100.0	19.1	29.1	45.6	46.0	9.6	8.2	24.6	7.5



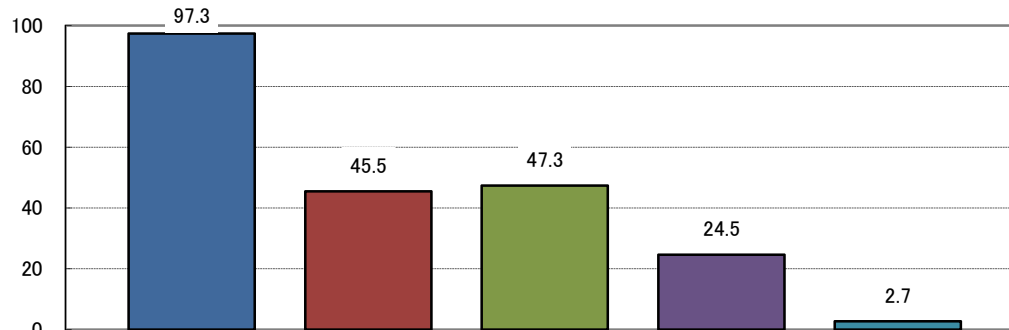
■学年 <MA>

	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
回答数	523	59	61	92	93	122	112
構成比率(%)	100.0	11.3	11.7	17.6	17.8	23.3	21.4

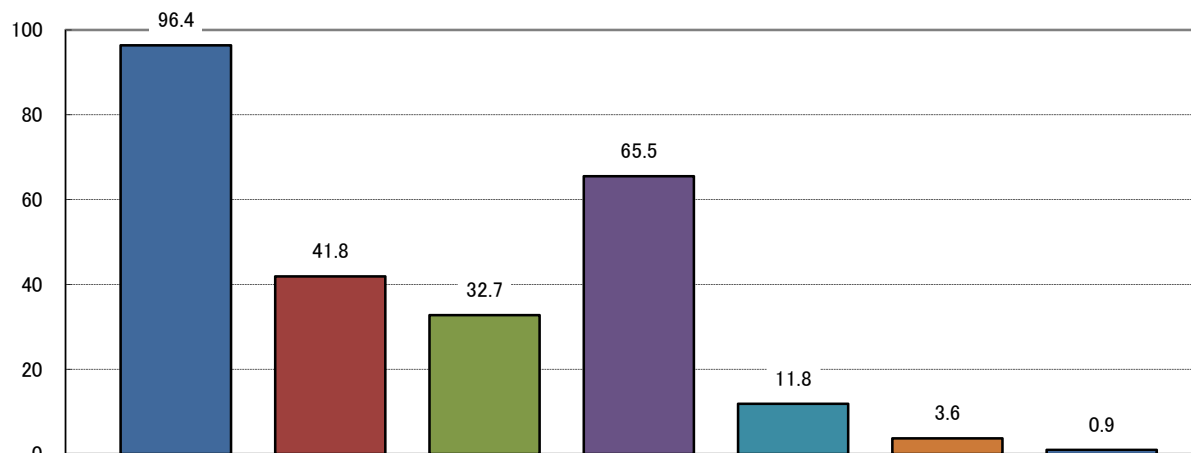


少人数授業指導（管理職の場合）

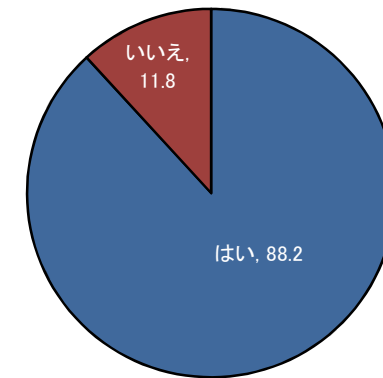
配慮



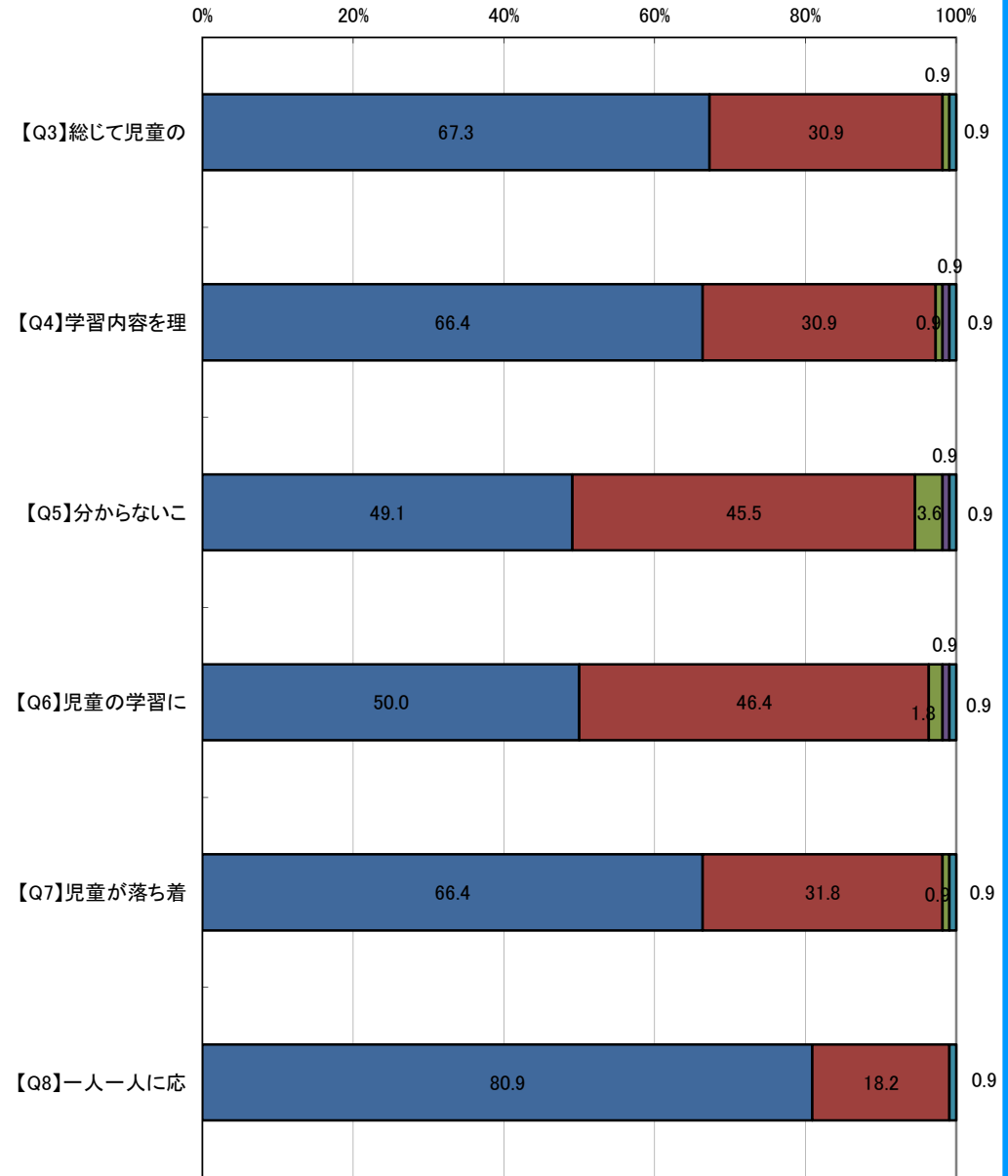
課題

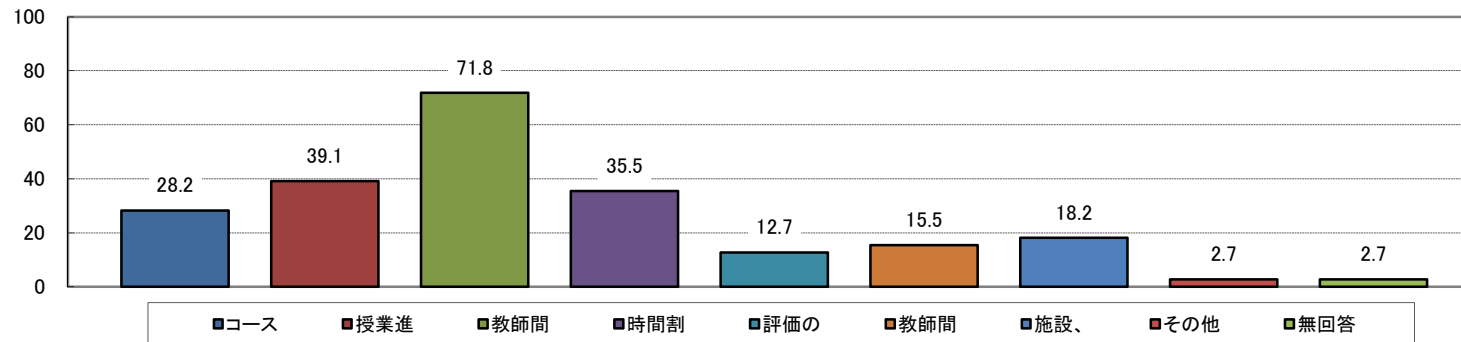
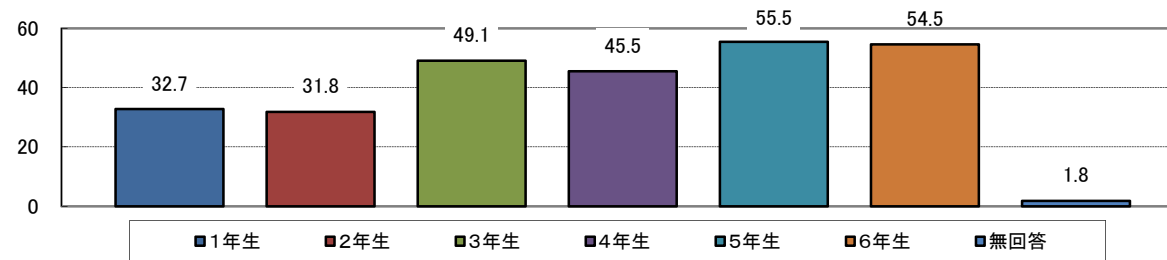
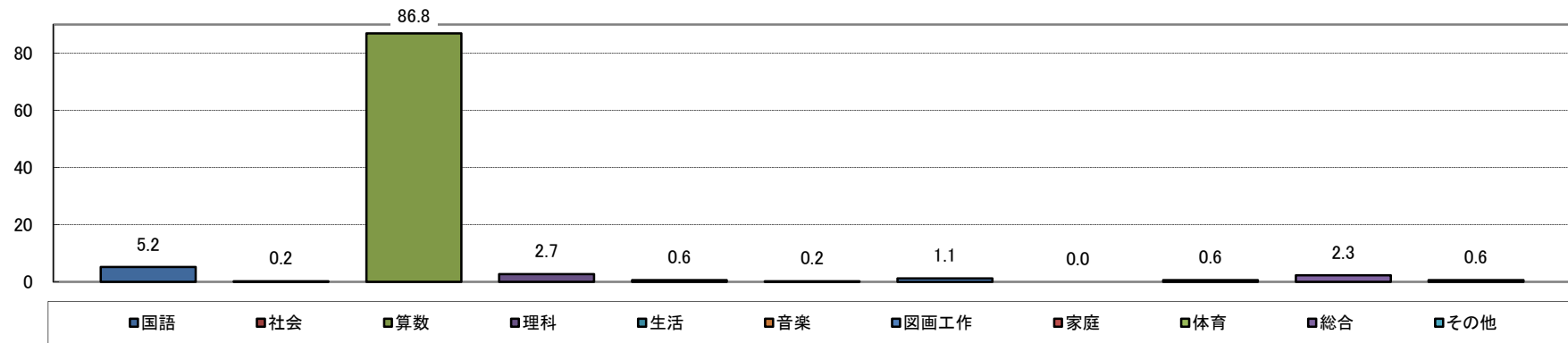


説明の有無

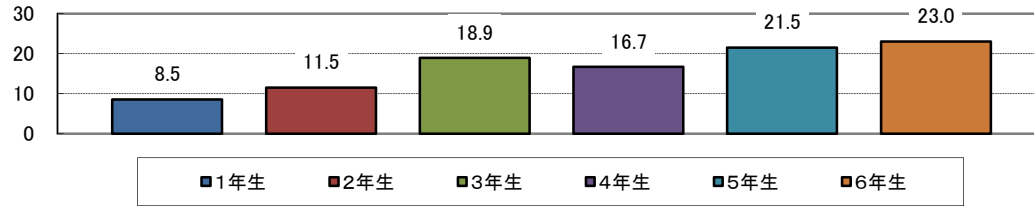


【Q3】総じて児童の基礎学力の向上 <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	74	34	1	0	1
構成比率(%)	100.0	67.3	30.9	0.9	0.0	0.9
【Q4】学習内容を理解できている児童の増加 <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	73	34	1	1	1
構成比率(%)	100.0	66.4	30.9	0.9	0.9	0.9
【Q5】分からないことを積極的に質問する児童の増加 <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	54	50	4	1	1
構成比率(%)	100.0	49.1	45.5	3.6	0.9	0.9
【Q6】児童の学習に対する意欲・興味・関心への高まり <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	55	51	2	1	1
構成比率(%)	100.0	50.0	46.4	1.8	0.9	0.9
【Q7】児童が落ち着いて学習をする <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	73	35	1	0	1
構成比率(%)	100.0	66.4	31.8	0.9	0.0	0.9
【Q8】一人一人に応じたきめ細やかな指導の有無 <SA>						
	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
回答数	110	89	20	0	0	1
構成比率(%)	100.0	80.9	18.2	0.0	0.0	0.9

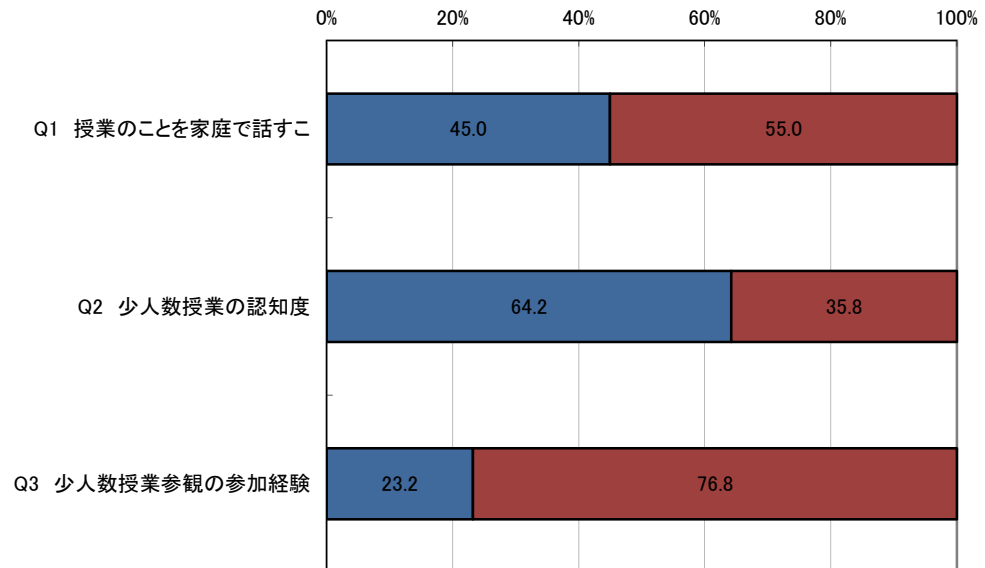




少人数授業指導 (保護者)

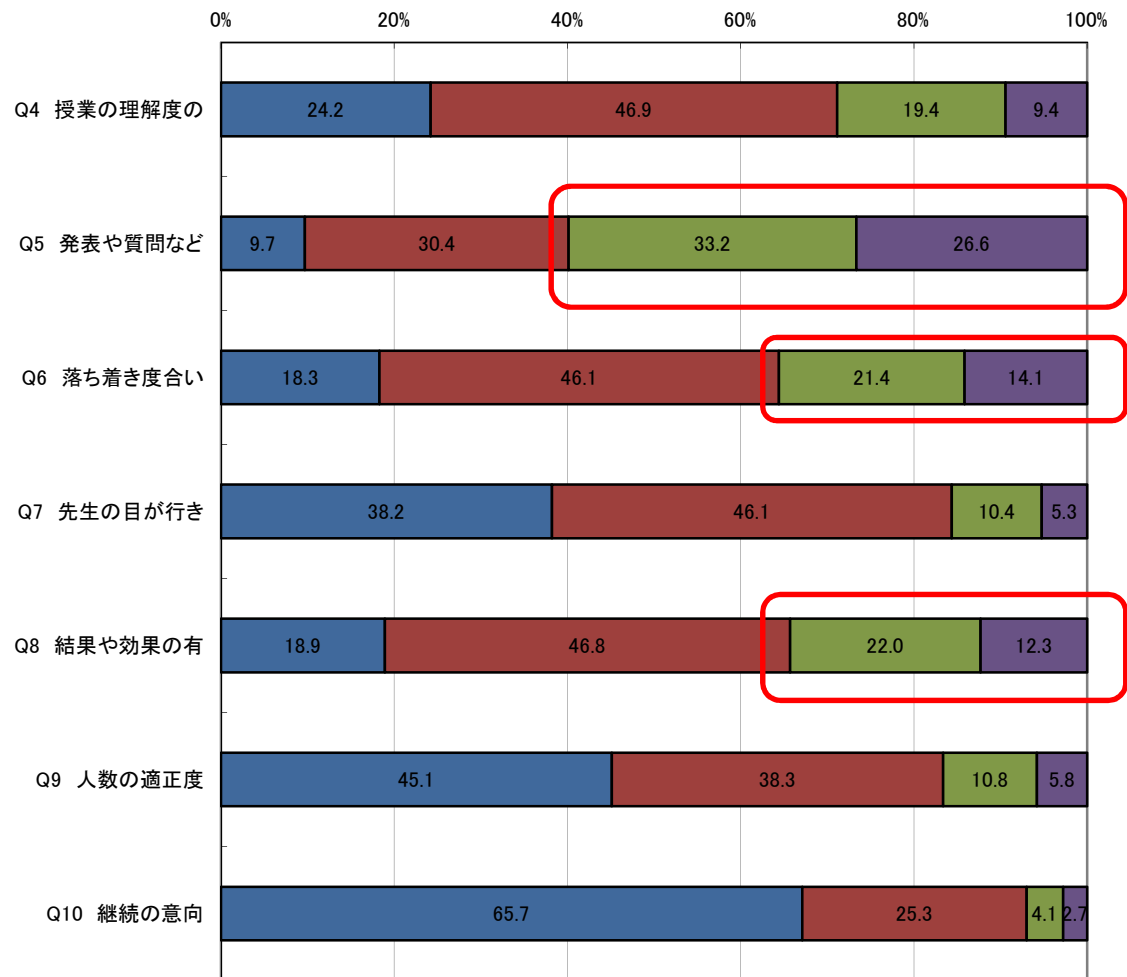


Q1 授業のことを家庭で話すこと			
	全体	はい	いいえ
回答数	3667	1649	2018
構成比率(%)	100.0	45.0	55.0
Q2 少人数授業の認知度			
	全体	はい	いいえ
回答数	3667	2355	1312
構成比率(%)	100.0	64.2	35.8
Q3 少人数授業参観の参加経験			
	全体	はい	いいえ
回答数	2527	587	1940
構成比率(%)	100.0	23.2	76.8



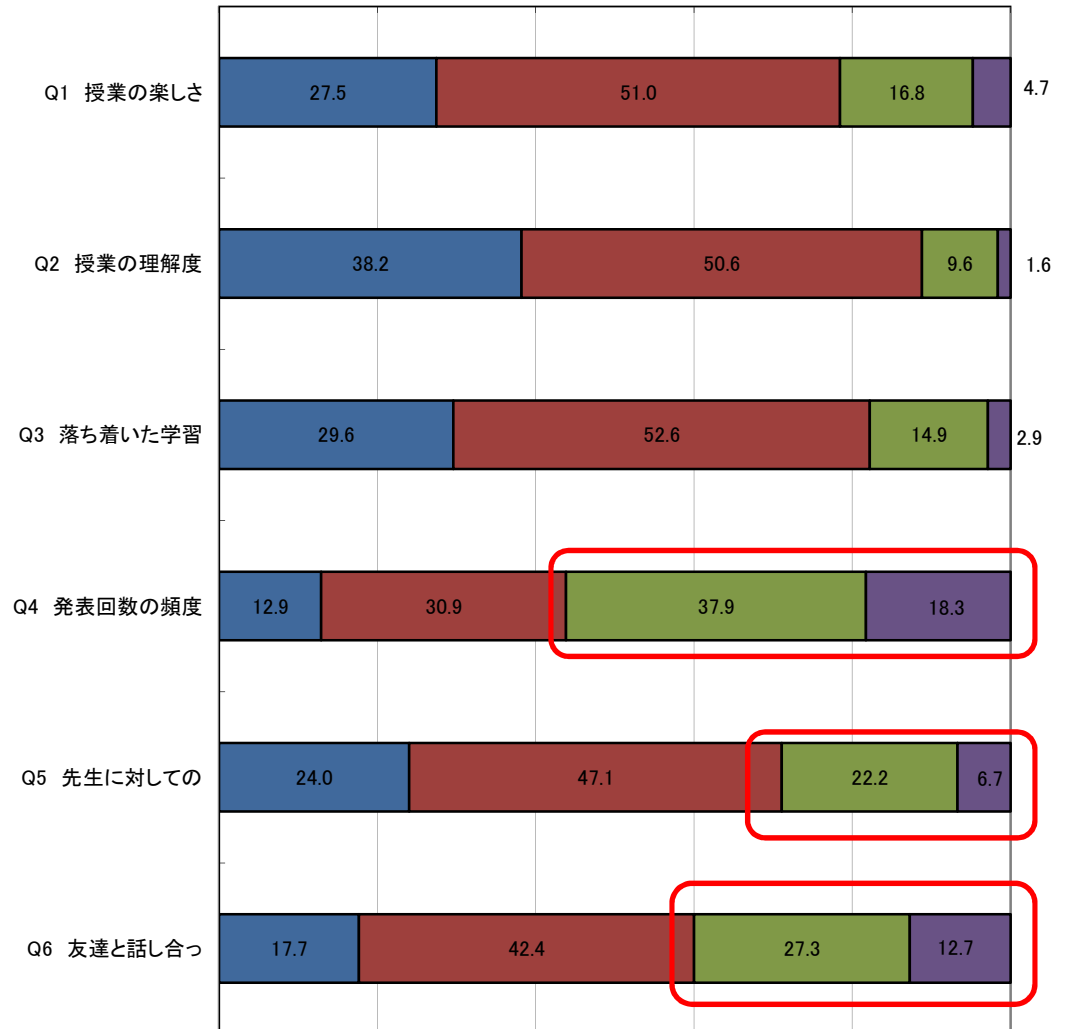
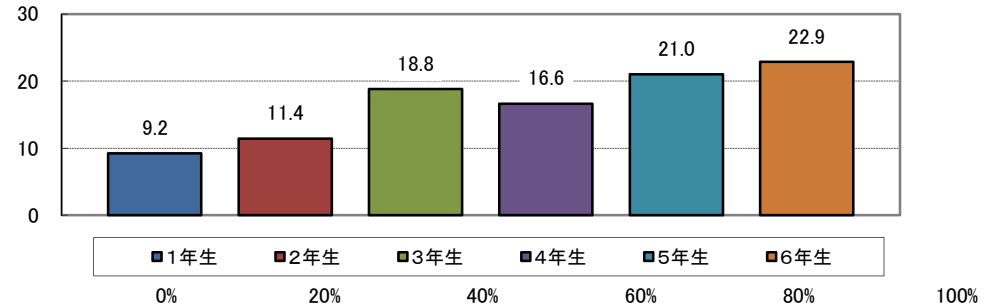
少人数授業指導 (保護者)

Q4 授業の理解度の向上	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2503	606	1175	486	236
構成比率(%)	100.0	24.2	46.9	19.4	9.4
Q5 発表や質問などの参加意欲	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2461	239	749	818	655
構成比率(%)	100.0	9.7	30.4	33.2	26.6
Q6 落ち着き度合い	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2463	451	1136	528	348
構成比率(%)	100.0	18.3	46.1	21.4	14.1
Q7 先生の目が行き届いている	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2514	961	1160	261	132
構成比率(%)	100.0	38.2	46.1	10.4	5.3
Q8 結果や効果の有無	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2488	471	1164	547	306
構成比率(%)	100.0	18.9	46.8	22.0	12.3
Q9 人数の適正度	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2475	1117	947	268	143
構成比率(%)	100.0	45.1	38.3	10.8	5.8
Q10 継続の意向	全体	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
回答数	2422	1626	627	102	67
構成比率(%)	100.0	65.7	25.3	4.1	2.7



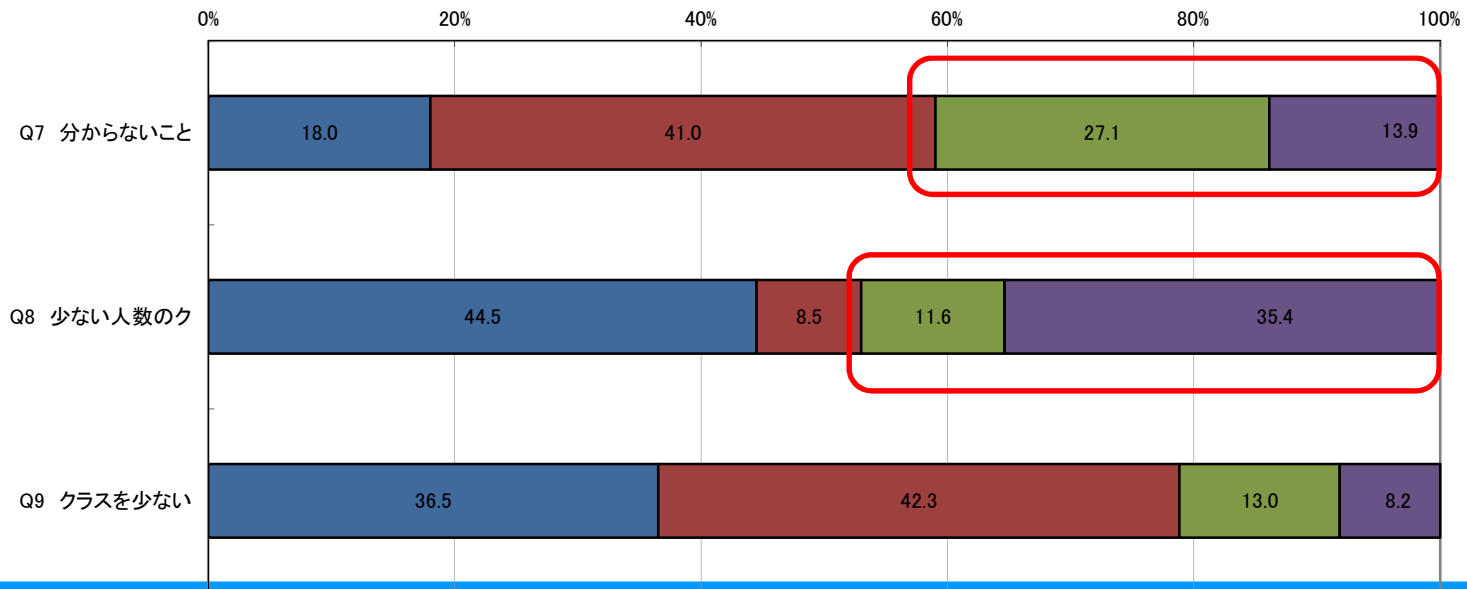
少人数授業指導 (小学生の場合)

Q1 授業の楽しさ	全体	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
回答数	8294	2277	4231	1393	393
構成比率(%)	100.0	27.5	51.0	16.8	4.7
Q2 授業の理解度	全体	よくわかる	わかる	あまりわからない	わからない
回答数	8302	3173	4201	796	132
構成比率(%)	100.0	38.2	50.6	9.6	1.6
Q3 落ち着いた学習	全体	よくできる	できる	あまりできない	できない
回答数	8298	2457	4367	1236	238
構成比率(%)	100.0	29.6	52.6	14.9	2.9
Q4 発表回数の頻度	全体	とても多い	多い	どちらかといえば少ない	少ない
回答数	8284	1070	2561	3140	1513
構成比率(%)	100.0	12.9	30.9	37.9	18.3
Q5 先生に対する質問	全体	とても聞きやすい	聞きやすい	どちらかといえば聞きにくい	聞きにくい
回答数	8346	2006	3929	1852	559
構成比率(%)	100.0	24.0	47.1	22.2	6.7
Q6 友達と話し合ったり相談すること	全体	とても多い	多い	どちらかといえば少ない	少ない
回答数	8277	1462	3506	2256	1053
構成比率(%)	100.0	17.7	42.4	27.3	12.7

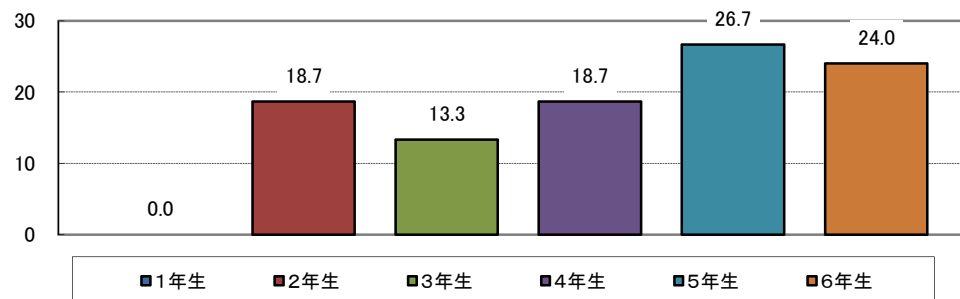


少人数授業指導 (小学生の場合)

Q7 分からないことを友達と教え合ったりすること					
	全体	とても多い	多い	どちらかといえ ば少ない	少ない
回答数	8268	1491	3389	2241	1147
構成比率(%)	100.0	18.0	41.0	27.1	13.9
Q8 少ない人数のクラスに分けて授業をすること					
	全体	ちょうどよい	多い	少ない	わからない
回答数	7569	3369	642	881	2677
構成比率(%)	100.0	44.5	8.5	11.6	35.4
Q9 クラスを少ない人数で行う授業と担任以外の先生と行う授業について継続の意思					
	全体	とても思う	思う	どちらかといえ ば思わない	思わない
回答数	8299	3032	3510	1080	677
構成比率(%)	100.0	36.5	42.3	13.0	8.2



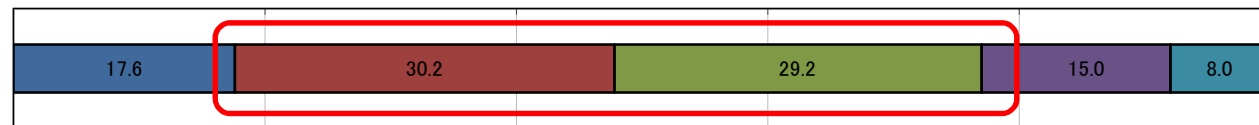
少人数授業指導 (小学生の場合)



Q1 少人数授業と今の学級の人数について

	全体	すべての授業において少人数の授業の方がいい	算数や国語など、ある授業だけ少人数がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)(3)のどれもいい	わからない
回答数	2357	415	712	688	354	188
構成比率(%)	100.0	17.6	30.2	29.2	15.0	8.0

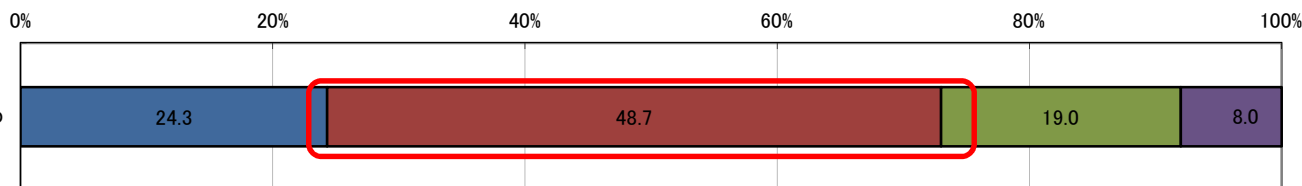
Q1 少人数授業と今



Q2 学級の人数について思うこと

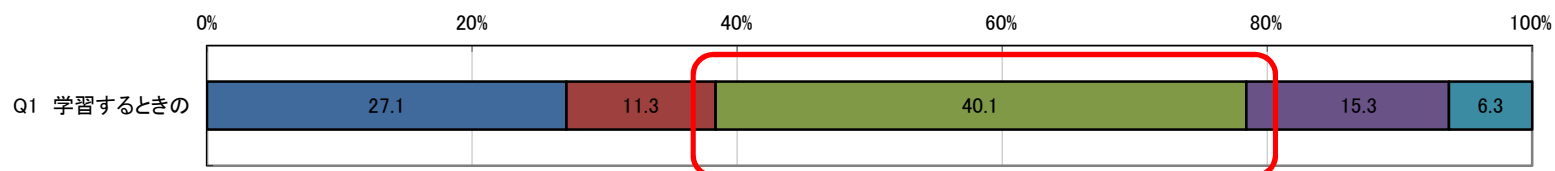
	全体	学級の人数は少人数の授業ぐらい少ない方がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)どちらでもいい	わからない
回答数	2315	563	1127	440	185
構成比率(%)	100.0	24.3	48.7	19.0	8.0

Q2 学級の人数につ

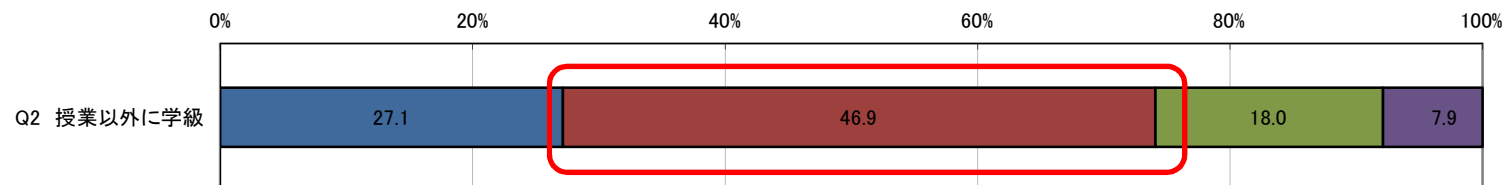


少人数学級（小学生の場合）

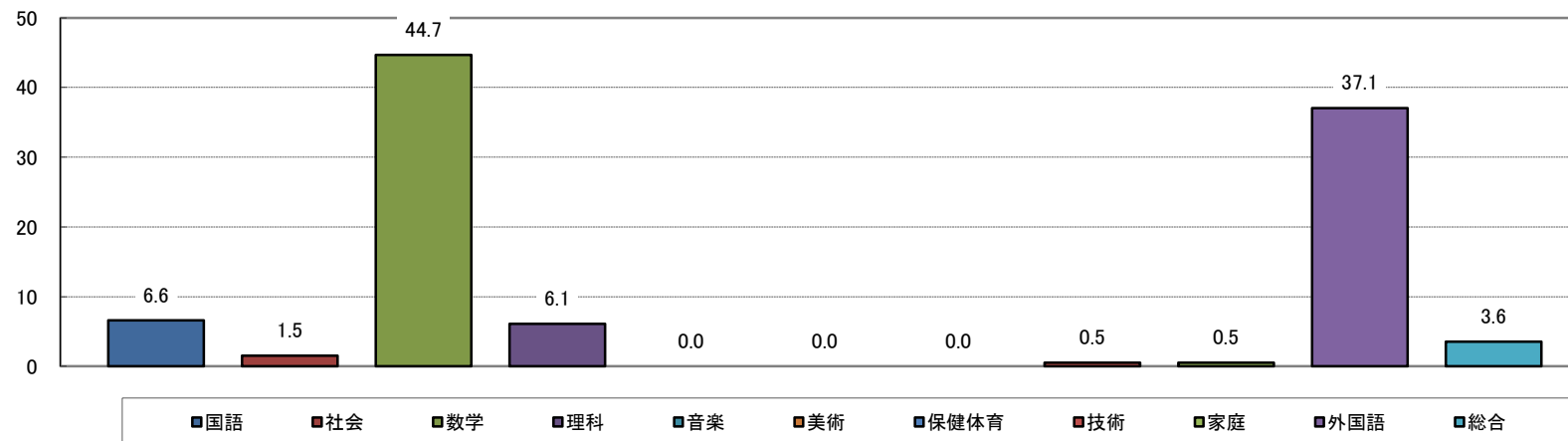
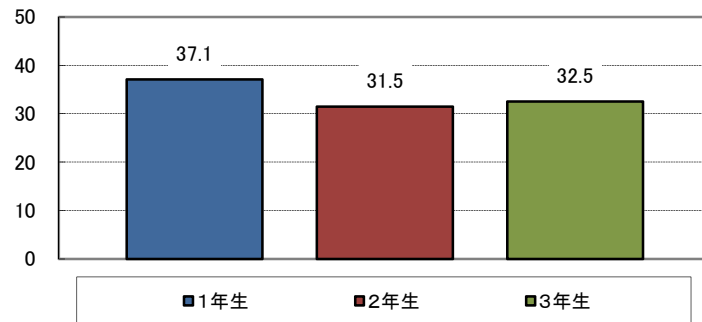
Q1 学習するときの学級の人数について						
	全体	少人数の学級の方がいい	算数や国語など、ある授業だけ少人数がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)(3)のどれでもいい	わからない
回答数	1066	289	120	427	163	67
構成比率(%)	100.0	27.1	11.3	40.1	15.3	6.3



Q2 授業以外に学級会・行事などをするときの学級の人数について思うこと					
	全体	少人数の学級の方がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)どちらでもいい	わからない
回答数	1065	289	500	192	84
構成比率(%)	100.0	27.1	46.9	18.0	7.9

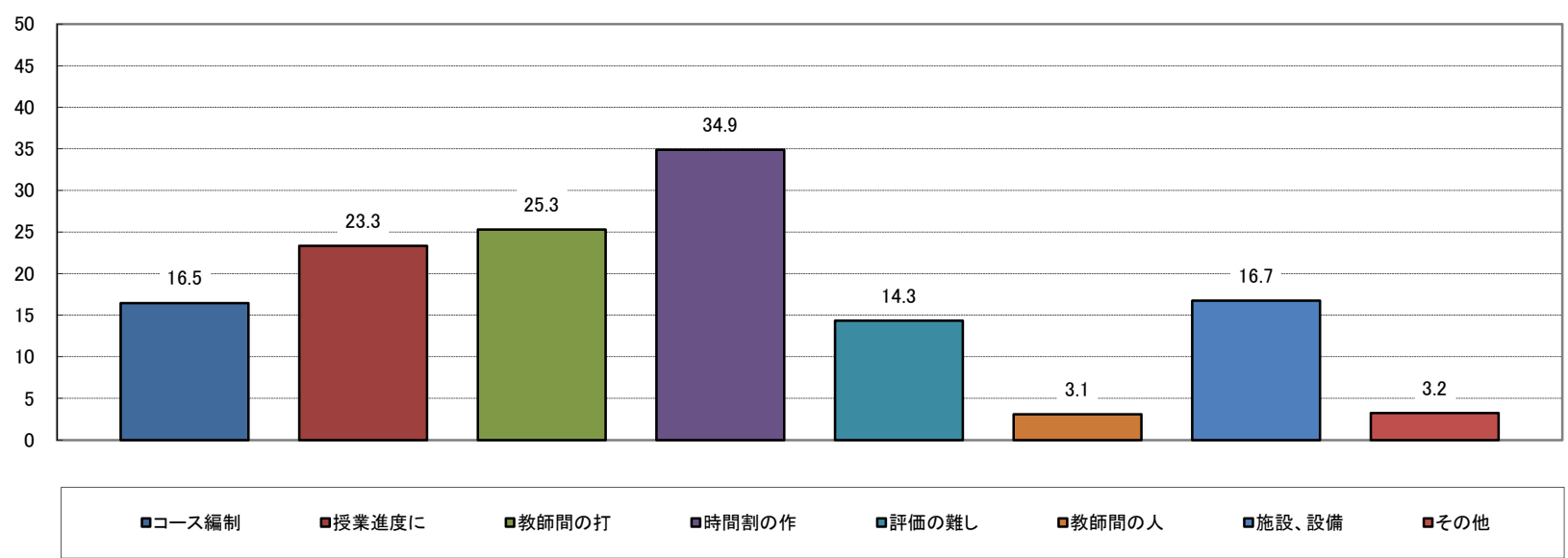
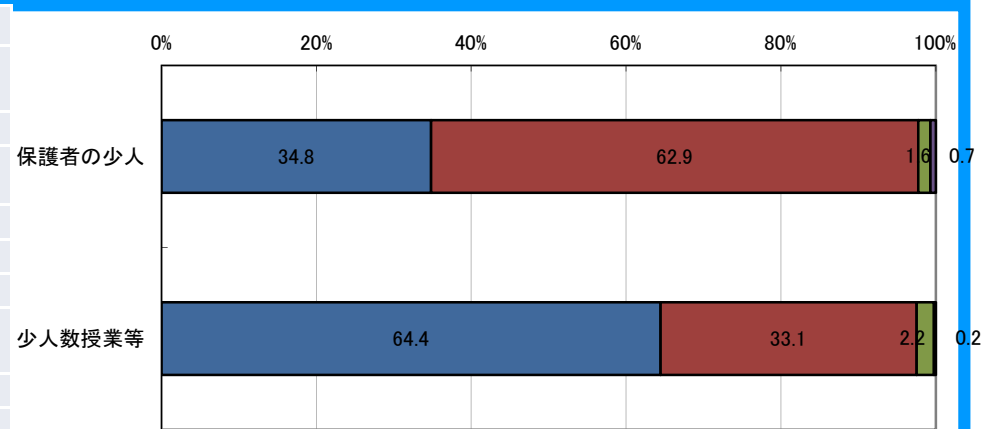


少人数授業指導(中学校教員の場合)

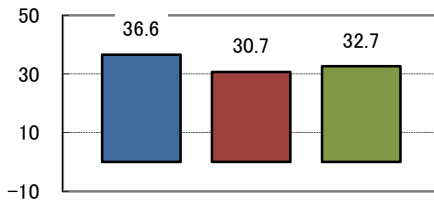


Q13 保護者の少人数授業等の歓迎度合い					
	全体	思う	どちらかとい えば思う	どちらかとい えば思わない	思わない
回答数	442	154	278	7	3
構成比率 (%)	100.0	34.8	62.9	1.6	0.7

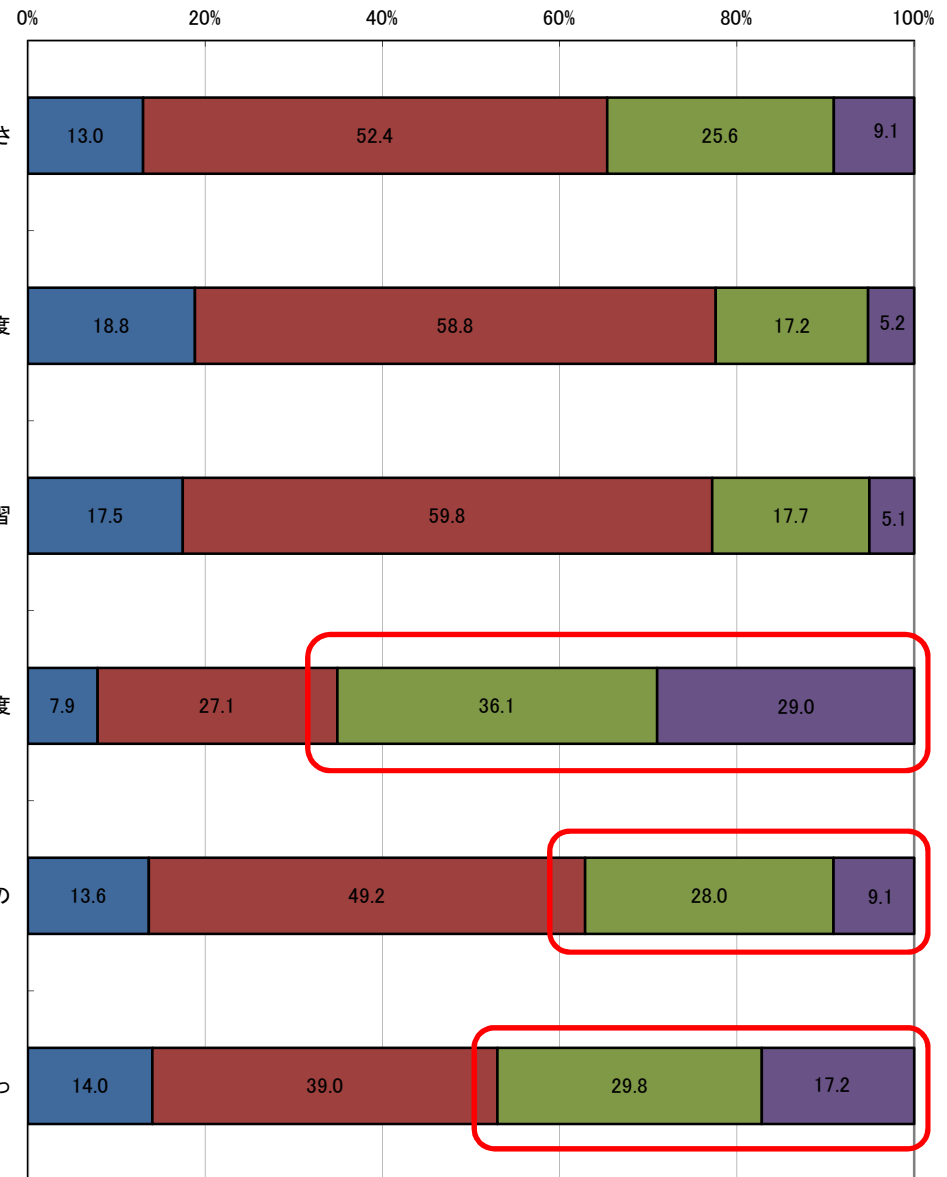
Q14 少人数授業等は生徒にとって効果的な授業形態である					
	全体	思う	どちらかとい えば思う	どちらかとい えば思わない	思わない
回答数	450	290	149	10	1
構成比率 (%)	100.0	64.4	33.1	2.2	0.2



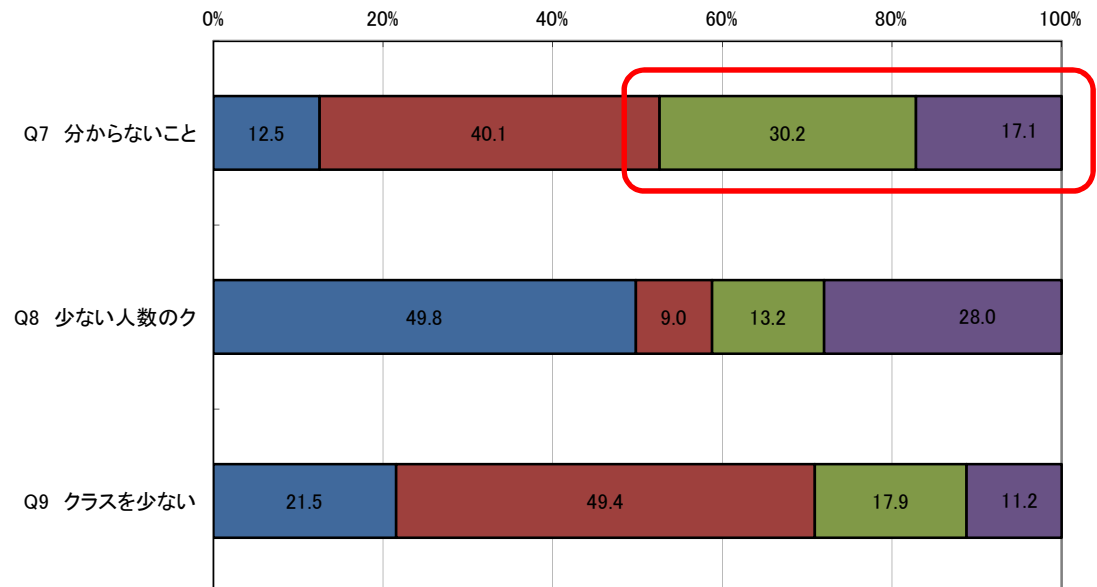
少人数授業指導(中学生の場合)



Q1 授業の楽しさ					
	全体	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
回答数	4733	615	2479	1210	429
構成比率(%)	100.0	13.0	52.4	25.6	9.1
Q2 授業の理解度					
	全体	よくわかる	わかる	あまりわからない	わからない
回答数	4734	892	2783	813	246
構成比率(%)	100.0	18.8	58.8	17.2	5.2
Q3 落ち着いた学習					
	全体	よくできる	できる	あまりできない	できない
回答数	4728	826	2825	838	239
構成比率(%)	100.0	17.5	59.8	17.7	5.1
Q4 発表回数の頻度					
	全体	とても多い	多い	どちらかといえば少ない	少ない
回答数	4715	371	1276	1701	1367
構成比率(%)	100.0	7.9	27.1	36.1	29.0
Q5 先生に対する質問					
	全体	とても聞きやすい	聞きやすい	どちらかといえば聞きにくい	聞きにくい
回答数	4727	645	2328	1324	430
構成比率(%)	100.0	13.6	49.2	28.0	9.1
Q6 友達と話し合ったり相談すること					
	全体	とても多い	多い	どちらかといえば少ない	少ない
回答数	4730	664	1843	1411	812
構成比率(%)	100.0	14.0	39.0	29.8	17.2

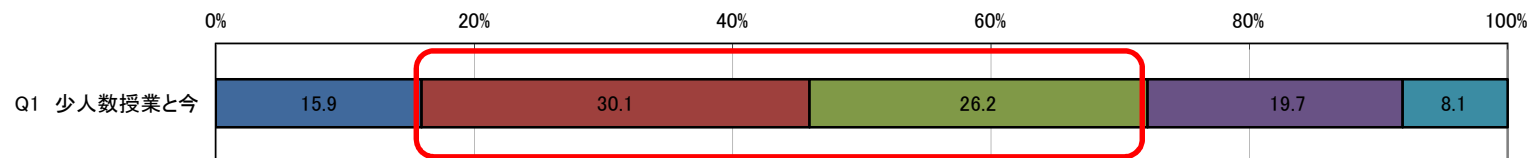


Q7 分からないことを友達と教え合ったりすること					
	全 体	とても多い	多い	どちらかといえ ば少ない	少ない
回答数	4738	594	1899	1433	812
構成比率(%)	100.0	12.5	40.1	30.2	17.1
Q8 少ない人数のクラスに分けて授業をすること					
	全 体	ちょうどよい	多い	少ない	わからない
回答数	4633	2308	416	613	1296
構成比率(%)	100.0	49.8	9.0	13.2	28.0
Q9 クラスを少ない人数で行う授業と担任以外の先生と行う授業について継続の意 思					
	全 体	とても思う	思う	どちらかといえ ば思わない	思わない
回答数	4710	1015	2325	843	527
構成比率(%)	100.0	21.5	49.4	17.9	11.2



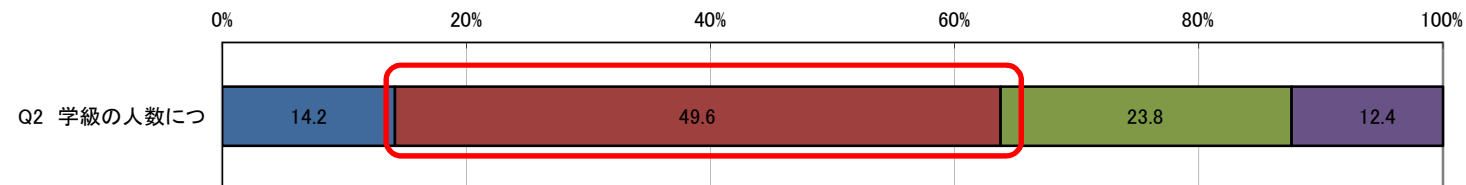
Q1 少人数授業と今の学級の人数について

	全体	すべての授業において少人数の授業の方がいい	数学や国語など、ある授業だけ少人数がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)(3)のどれでもいい	わからない
回答数	1414	225	425	370	279	115
構成比率(%)	100.0	15.9	30.1	26.2	19.7	8.1



Q2 学級の人数について思うこと

	全体	学級の人数は少人数の授業ぐらい少ない方がいい	今の人数の学級の方がいい	(1)(2)どちらでもいい	わからない
回答数	1413	200	701	337	175
構成比率(%)	100.0	14.2	49.6	23.8	12.4



得られたこと

- 少人数指導（少人数学級編制と少人数授業）を推進していく際には、その人数を生かす授業方法を考えるなど、少人数の授業の授業観をあらためて問い直し指の洗練化を図っていく必要がある。（学習面の指導と生活面の指導の両方において）
- 少人数指導の受けとめ方と関わって、校長、教員、保護者の見方と、児童生徒の見方は少し異なっていることを理解する必要がある。本調査結果から明らかになったように、児童生徒は、校長、教員、保護者が望んでいるほど、少人数学級や少人数授業に対して望んでいるとは限らない。児童生徒がそのメリットを感じられる経験を与えたり、指導法の工夫を考えるか、あるいは児童生徒が望んでいる人数規模で効果を上げる方法の検討などが求められる。
- 少人数授業は、教科特性や内容の困難さなどに関わって、授業を行っていくため柔軟性があり、学校として加配教員に効果的な役割を持たせる可能性がある。しかしながら、調査結果でも出ていたように、教員間で打ち合わせ時間の確保や進度調整、また保護者からも、少人数学級編制ほど高い支持はないこともあり、その違いの説明と共に、(1)で述べた授業方法の工夫やチームでの指導方法の工夫などが求められる。
- * 小学校1年生、中学校1年生のなどの移行期（学習面と生活面）には少人数学級の希望がある